

北野高校定時制は私の原点

～北辰会は同窓生の絆～

19期 鳥生 静夫

この度は、早速多くの貴重な資料をお送り頂き有り難うございました。北辰会の活動については、私自身つい疎遠にしてきましたが、名誉ある北野高校定時制が閉課程になったことも今回初めて知りました。72年史で栄光の歴史、および経過が、また事務局長さんの「北辰会よもやま話」で学校関係者、北辰会に関係された方々のご苦勞が伝わってきました。

特に歴代会長さんを始め事務局長様には、長年に亘って献身的に支えて頂きましたことに、感謝申し上げます。

そこに書かれている「北辰会が私たち会員にとって青春の故郷、オアシスのみならず、生きるための糧になっているためではないでしょうか」の通りだと私も同感です。

諸出版物を懐かしく読ませて頂きました。そこには、与えられた環境の下で、一人ひとりの一生懸命に生きてきた人生のドラマがあり、同じ時代を生きてきた者にとって、自分の人生とオーバーラップさせる様々なことが走馬灯のように思い出されます。

「働く」ということと「学ぶ」ということの両立をなすための、精神力と体力が要求される中で、目を開かせてくれた北野高校定時制は私の人生の原点であり、北辰魂に支えられて人生の困難を乗り越えてきたことこそ、今の幸せに

繋がるものと思われます。

「貧乏だけど幸せ」という言葉のとおり貧しかった時代を日本人の活力、輝き、貧しいからこそ、そこに幸せがあったのがこの時代ではなからうか。

人生で一番貧しかった若者の皆が夢と希望を持った時代、また夢を努力で実現することができた時代であった。

「ゆうべの星のまたたきを理想の影と仰ぎつつ・・・」と校歌にあるように、苦しかった北野高校定時制時代の経験こそ私の力の源泉であったと思います。

みんなすばらしい才能と夢を持ち合わせた面々の集まりであった、よき師と友に支えられて生きて来た、その母校が閉課程になったということは悲しいことであるが、これも今日の豊かさが日常を輝きのないものにしてしまった、時代の流れかとノスタルジーを感じるこの頃である。

今まで学校教育、出版物、北辰会の運営に携

わって頂いたたくさんの方々のご苦勞に感謝申し上げますと共に今後とも北辰会が同窓生の絆となっていけることを祈念申し上げます。

有り難うございました。



叙勲時のご夫妻